

---

## コメント

---

### 菊地康人 初級日本語教育の諸問題の連鎖と、それらの一括解決の提案 ——辞書形をはじめ、プレインフォームへの習熟を

初級日本語教育にはいくつかの重要なポイントがある。本稿は、そのうち特に、活用の識別とプレインフォーム（普通形）への習熟の重要性を説いたものである。前者については、早い段階から辞書形を提示し、辞書形をもとに活用の識別を行う「辞書形基本主義」を採ることの重要性が指摘され、後者については、日本語の文には、文体に関して「プレイン（丁寧）」かどうかに関わる文末と、プレインさと無関係に非デス・マス形（プレインフォーム）が使われる非文末という2つの世界があり、後者への習熟が初級で問題となる多くの形態的、統語的問題の解決にとって不可欠であることが説得的に述べられている。今後、初級日本語教育における文法的問題を考える上で必読文献となると思われる好論文である。（I）

---

### 李 迅 教師の問いかけにおける知識内容とチャットによる学習者の反応時間との関係 ——中国の同期型オンライン初級日本語授業の録画観察から

3年以上にもわたり世界を席卷したコロナ禍はもはや過去のものとなったと言ってもよいかもしれないが、急速に普及したオンライン授業は過去の遺物というよりも、その可能性をわれわれに強烈に見せつけた。本研究は、同期型オンライン授業における学習者のチャット反応時間を分析するという、極めて現場密着性の強い実践的研究である。普通の対面授業においても、教師は学生が反応に必要とする認知的負担を絶えず計算しながら、授業を展開する。チャットにおいても、「知識の応用・分析」の問いかけに対してチャットによる学習者の反応時間が長くなることが実証された。今後、広く共有されるべき知見である。（S）

---

### 阿部二郎 海外にルーツのある児童生徒が在籍する学校現場の言語観

現在学校現場で日本語を母語としない児童生徒が増えてきており、彼／彼女らに対する日本語教育が重要な課題となっている。この問題に関する重要な論点に、大学などで日本語教育の訓練を受けていない教員が日本語教育を担当するケースが多く存在する点がある。本稿では、こうした児童生徒の指導に当たる教員に対するアンケート調査を通して、使用する教材とその教員がどのような言語観を持っているかの相関を調べたものであり、日本語学的関心を持つ研究者がこの問題にアプローチする際の方法を考える上でも示唆に富む。（I）

茅 桂英 「てください」の使用状況の変遷について  
——ビジネス小説を調査対象として

実際の言語使用において、聞き手の関係性にもとづいてどのような言い方をすればよいのかは、学習者のみならず母語話者にとっても悩ましい。相手との摩擦を生じさせかねない依頼や命令の行為であれば、それはなおさらである。本論文は、昭和期と平成期のビジネス小説において、「てください」の使われ方の傾向が異なることを数字上で実証する。下位者に「てください」を用いて依頼するのは、1970年代半ば以降に顕著な傾向であるという。また、1939年生まれ以降の作者（小学校教育を戦後に受けた世代ということか）の場合に、下位者に「てください」の使用が多いという。変化の傾向がよく現れていて興味深い。(S)

黄 海洪 外国人介護人材向け介護テキストにおける漢語の量的分析  
——介護福祉士国家試験との比較を通して

外国人人材受け入れの問題が脚光を浴びている。介護分野は現在でもすでに深刻な人手不足が伝えられているが、今後、その深刻度が増すことは言を俟たない。本論文は、介護分野の漢字の問題に焦点を絞り、現状の問題点を定量的に明らかにするだけでなく、今後の方向性に示唆を与える貴重な論考である。また、本論文は、専門領域において必要な用語の言い換えが、公文書で用いられているいわゆる「やさしい日本語」と同様にはいかない可能性も指摘する。介護領域に限らず、今後、われわれが真剣に向き合うべき課題を提示している。(S)

徐 単 YNU書き言葉コーパスにおける前置き表現の使用実態  
——日本語母語話者と学習者の比較分析を中心に

これまで、学習者には使用が少ないと考えられていた前置き表現について、YNU書き言葉コーパスの4タスクを分析した研究。その結果、依頼予告「お願いがあるんですが」や謝罪表明「申し訳ありませんが」は学習者にもよく使用されている一方で、発信予告「お話ししたいことがあるんですが」や話題提示「少し前の話になりますけど」は学習者の使用が少なかった。また情報を伝えることよりも、受信側に悪い印象を与えないように配慮しながら自分の発信態度を伝える「突然のメールで大変失礼いたします」のような態度表明の前置きが学習者には難しい、など興味深い分析がなされている。(M)

謝 カン月 日中接触場面の討論に現れる「譲歩」の使用実態  
——出現回数と表現形式に着目して

中国語母語の学習者と日本語母語話者との接触場面（討論）に現れた「譲歩」を表す発話（例：確かに…はわかりますが、）を取り上げ、考察した研究。日本語母語話者に比べ中国語母語学習者は「譲歩」の使用が少なく、譲歩のバランスが取れていないことについて、日本語母語話者が配慮の不足を感じる可能性や、その結果として人間関係に負の影響を与える可能性があるとの指摘は興味深い。多様な「譲歩」表現の分析・分類や、母語である中国語の干渉、指導の提案なども盛り込まれ、何より従来、独話での分析しか行われていなかった「譲歩」を、対話場面のデータから実証的に論じた意義は大きい。（M）

許 燕 日中韓母語話者における副詞「実は」の使用実態考察  
——I-JAS・CSJ・NUCCを用いて

自己紹介で「実は〇〇の出身です」という言い方が不自然であることから、「実は」が持つ意味的・文法的な制約を探った研究。意味的には、その事態に至った「事情」を説明する場面において、「真実・真相」や「聞き手にとっての意外な事実」を「打ち明ける」「秘密を開示する」といった場面で使われる。文法的には事情説明の「のだ」も含めた名詞述語文、あるいは状態性動詞が述語となる必要があり、また言い切り文のほか「実は～で／～なので／～なのだが」のような連用節に出現する。他に、学習者の母語（中国語・韓国語）の影響、教科書の導入についても分析され、日本語教育のための副詞研究となっている。（M）

三好優花 話題から見る「シヨウト思ウ／思ッテイル」と「ツモリ(ダ)」  
——『日本語話題別会話コーパス:J-TOCC』の分析を通して

意志を表す文法的類義表現①「シヨウト思ウ」・②「シヨウト思ッテイル」・③「ツモリ(ダ)」を「話題」から分析した研究。①は「家事」の話題に最も多く、話者である大学生に家事が気の進まない・不慣れなものであることが関わる。②は「夢・将来設計」に最も多く、将来の予定や、変更された元の予定を述べる際に使われる。③も「夢・将来設計」の話題に最も多く出現したが、予定として意志を述べる用例はなく、また半数が「つもり(は)ない」の形で、前の発話内容を受けてその気はないと否定する例であった。「話題」という観点から文法形式を分析した点は、教室での指導にも役立つのではないだろうか。（M）

乾 乃璃子 「NP1つまりNP2」に見られる名詞の特徴から見る  
「つまり」の特徴——同格名詞句との比較から

日本語のテキストでは先行する名詞句 (NP1) を別の名詞句 (NP2) で言い換えることがよく行われる。こうした言い換えの際によく用いられる接続詞に「つまり」があり、「つまり」と類似の機能を持つ表現に同格名詞句がある。本稿は、「つまり」の前後に来る名詞句をBCCWJを用いてパターンごとに分類し、それぞれの特徴を分析したものである。調査の結果、「つまり」と同格名詞句の間には興味深い関係が存在することが明らかになった。(1)

目黒裕将 中国語を母語とする日本語学習者の卒業論文における  
「ことだ」の誤用——主語と前接する品詞の観点から

日本語学習者の文章によく見られる誤用に、「AはBことだ。」という文型に関するものがある。本稿は中国の大学における卒業論文の草稿を題材にこの問題を考察したものである。調査の結果、A (主語) には「第一に、第二に」のような「リスト型」が来ることが多く、B (述語) の品詞としては動詞が最も多く、動詞の形態では辞書形よりも辞書形以外が多いことがわかった。「ことだ」の文型は最も基本的なものの1つでありながら、特に長い文になるほど誤用が出やすい。今後の研究の発展が期待される好論文である。(1)

馮 雁鴻 文系学術論文におけるダロウとノデハナイカの比較  
——アカデミック・ライティング指導の改善を目指して

類義表現の使い分けの説明を、文法研究の観点から精度の高いものにしていく努力が大事であるのは当然である。また、その成果を如何に効果的に学習者に還元できるかは、斯界がかかえる最重要課題である。その意味で、本研究のように対象を限定しその詳細を精緻に分析していくことは、この課題に対する有力な方向性の1つを示すものである。本論文は、考察対象をアカデミック・ライティングとし、ダロウとノデハナイカの推量用法と婉曲用法が、論文のどのような箇所で、書き手が何を述べようとしているときに用いられるかを明らかにする。学ぶべき点の多い一篇である。(S)

佐藤琢三・庵功雄 「ておく」における命令表現の機能

補助動詞「ておく」の命令表現「ておいてください」の機能を論じた研究。「ておく」は、限界動詞(壊す)と非限界動詞①(読む)に接続し、非限界動詞②(待つ)とは共起しないこと、限界動詞と非限界動詞①の「ておく」命令表現は、動詞の示す動作の完了を命じることを表すことが示され、無標の「部屋を片づけてください」と有標の「部屋をかたづけておいてください」の違いとして、前者が発話直後の実行が命ぜられているのに対し、後者は、動作実行のタイミングが発話時以降であることを含意することが指摘されている。「ておく」の全様相ではなく命令表現に限定したことが、明解な結論に結びついている。(M)